

SSHセミナー I	コマ数 (単位)	0.75コマ (1単位)	型・コース	1学年
	副教材等	岡本尚也「課題研究メソッド」 啓林館 2018年度キャリアリサーチ (活動編)		

1 学習目標

SSHセミナー I では、机上の理論だけでなく、実際の体験や実習を通してコミュニケーション能力や情報活用能力を培います。

文献検査や統計学での実習では、情報の取得や表現・管理に関する基礎的な知識・技術を身につけます。プレゼンテーションやディベートによる複数回の発表では、表現力・コミュニケーション力の基礎を身につけます。また、これらの活動を通じて、生徒同士で協働して研究やプロジェクトを行うことで、論理的思考力・判断力・協調性を身につけます。

それぞれの講座での目標は下記のようになります。

- 文献検索活用講座：課題研究を進めるための基礎知識を学習し、課題テーマを設定するには、社会貢献や社会問題を意識する必要があることを学びます。情報を収集する時に注意することは、知的所有権を尊重し、信憑性・信頼性を得るため複数の情報源を利用するべきであることを学びます。さらに、仮説の設定方法・検証方法、結果の整理と処理の手法も身につけます。
- 統計学基礎講座：数学 I および社会と情報の教科書を基本として、エクセルを利用して様々な種類のデータ間にある相関を調べます。例えば、アイスクリームの売り上げと平均気温や湿度などにどんな関係があるか、これが解れば平均気温が高くなればアイスの仕入れ量を増やすことができます。他にもサッカーの勝率を上げるために必要なことは何かなどを考察しながら、統計学的考え方を身につけます。
- プレゼン講座 I：社会と情報の教科書を基本としてクラス単位でワープロソフト (ワード)、表計算ソフト (エクセル)、プレゼンテーションソフト (パワーポイント) の基本操作を実習で身につけます。その上で実際のプレゼンテーションを行い、解りやすい表現の工夫や方法を身につけます。
- ディベート講座 I：クラス単位でディベートの基本を学んだ後、クラス内でディベートを体験して、与えられた論題について深く考え、自分の考えを論理的に話し、他人の話を要約し理解しながら、相手を説得する話し方を身につけます。

2 学ぶ目的

情報化社会の現代で活躍するためには、情報活用能力は必須能力です。この情報活用能力には、情報を収集する力、得られた情報を整理し必要に応じて加工する活用能力、伝わりやすく表現する力などがあります。また、他者とコミュニケーションを取り協働して課題を解決する能力も大切な能力です。これらの力を身につけるには理論として学ぶだけでなく、コンピュータ実習や発表会、ディベートなどの実体験が必要になります。これらの能力を培うことが SSH セミナーの目的です。教科として大学入試では出題されませんが、これらの能力は、大学で卒業研究や卒業論文を作成する際にも役に立つ能力であり、将来にわたり役立ちます。短期的には大学入試の学習を進めるうえでも必要な能力です。積極的に取り組み、目的を達成してください。

3 授業の進め方

「SSHセミナー I」は週 0.75 コマで「社会と情報」とセットで実施します。両科目を同一教諭が担当するので、学習内容によりまとめて実施します。「社会と情報」を連続して実施し、章などの節目で切り替えて「SSH セミナー I」を連続して実施します。切り替えは授業の中で連絡します、切り替えの際は教室や持参する教科書などの持ち物に注意してください。

1 コマの授業の中では、導入 (その時間の学習内容の予告) 5分、テキストの説明 (15分)、テキストや補助資料などを用いた調べ学習 (30分)、発表 (10分)、まとめ (5分) のように進めます。積極的に取り組んでください。

コンピュータ実習は、基本操作を「社会と情報」で学習します。その後、「SSH セミナー I」で発表会の資料作成やエクセルでの表形式・グラフでの表現、統計処理を行います。操作方法が不慣れな生徒には個別に対応します。演習の時間は課題が完成できるように長めに取りますが、操作に不慣れな人は、周囲の人に聞いたりしましょう。

4 学習方法

講座ごとに学習方法を以下に示します。基本として配布された資料や自分が得た知識などをまとめたものはSSHファイルにファイリングしていつでも見られるように保存しましょう。

- **文献探査活用講座**：課題研究をどのように進めるかをイメージしながら授業を受けましょう。学んだ知識を如何に実践に結びつけるかが大切です。この知識は、高校時代の課題研究だけでなく、今後自分自身の課題を解決する際にも活用できます。
- **プレゼン講座 I**：ソフトウェアの基本操作に関しては特に予習を前提としません。授業内で操作方法をよく覚え、授業を実施した後に課される課題を、その時間内で完成させましょう。コンピュータ操作に慣れていない人は、コンピュータ室と化学講義室を昼休みや放課後に開放します。情報化社会では、コンピュータ操作は必須のスキルです。スムーズな操作ができるよう練習しましょう。
- **統計学基礎講座**：統計的手法を使いこなせるようにその理論と操作方法を習得しましょう。与えられたテーマに興味を持ち、柔軟な発想をすることが良い作品を作成する鍵になります。
- **ディベート講座 I**：ディベートの手法を学んだ後、データ、資料などに基づいて肯定側、否定側両方の立場に立って自分の主張を考え、論理展開する準備を十分に行いましょう。ディベート本番では根拠を明示し、分析的に考えをまとめることが大切になります。

5 学習計画

月	学習項目 (単元名)	学習内容	備考 (試験等)
4	〔社会と情報 1 情報社会〕	〔情報化社会・情報とは何かについて学び、その特性や扱い方を学習します。〕	
5	〔社会と情報 2 情報とメディア 3 情報モラルと社会のルール〕	〔メディアとは何か学び、分類方法や伝搬方法などについて学習します。〕	
6	課題研究メソッド	課題研究の進め方・まとめ方、引用文献の表示方法などについて学習します。	
7	〔社会と情報 3章 表現と伝達〕	〔ワードの基本操作について学習します。〕	期末考査
夏季補習	実施しないが、課題作成のためのコンピュータ室や化学講義室の使用は認める。		
8	〔社会と情報 表計算ソフトの利用〕	〔表計算ソフトの基本操作を学習します。〕	
9	〔社会と情報 表計算ソフト (継続) 統計学基礎講座〕	〔表計算ソフトの基本操作を学習します。 統計学の理論と手法を学習します。〕	
10.	〔社会と情報 情報機器とデジタル表現〕	〔デジタル化やコンピュータの表現方法 画像・音声・文字について学習します。 また、2進数や16進数を学習します。〕	
11.	〔社会と情報 表現と伝達 プレゼンテーション〕	〔パワーポイントの基本操作を学習します。〕	

12.	プレゼン講座	効果的なプレゼンテーションの方法について学習します。その中で英語のプレゼンテーションも視聴します。	期末考査
冬季補習	実施しないが、課題作成のためのコンピュータ室や化学講義室の使用は認める。		
1	〔社会と情報 コミュニケーションとネットワーク〕	〔ネットワークやコミュニケーションの種類 適切な方法について学習します。〕	
2	ディベート講座	ディベートについてディベート大会を視聴し、基本ルール・試合のための練習をします。	学年末考査
3	ディベート講座	クラス内で、ディベートの試合を体験します。	

6 評価方法

評価項目を以下の1～3で定め、各講座の評価項目を○で示す。

評価項目	文献探査活用講座	プレゼン講座 I	ディベート講座 I
1. 客観テスト	○	○	○
2. パフォーマンス		○	○
3. 講義レポート	○	○	

評価項目1については従来通り、定期考査による評価を実施する。

評価項目2についてはルーブリックを用いた評価を実施する。

評価項目3については講義レポートを評価として用いる。

①客観テスト（各学期の期末考査の点数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80%

②パフォーマンスと講義レポートの評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20%